



エアコンありがとうございます

福島第1原発事故の放射能物質のために窓が開けられず、エアコン設備のない福島県相馬市の相馬高校(二本松義公校長)に8月12日、東京教区災害対策委員会(委員長 山本政秀事務所長)がエアコン38台を届けた。

NPO法人JIPPO(十方)の中村尚司専務理事が5月に同地を訪れた際、福島県教育委員会から現況を聞き、築地別院(不二川公勝輪番)と同災害対策委員会に協力を依頼。同別院が500万円、同委員会が500万円を出し、業務用エアコンを同校に贈ることになった。

現在、3年生6クラスに設置が終わった(写真)。八巻彰太さん(3年)は「放射能が気になって

窓を閉めていたので、暑すぎて勉強に集中できない。エアコンを付けていただいても感謝しています。多くの方に支えていただき、小さい子も安心して暮らせる福島に戻るように僕たちも頑張ろうとやる気になった」と話した。

同校には震災後、南相馬市の原町高校、相馬農業高校、小高工業高校の生徒を受け入れており、約1400人の生徒が学んでいる。

相馬高校は「エアコンをいただき感謝している。生徒たちの学習環境を整えていくため、設置費用への協力もぜひお願いいたします」と話している。

支援についての問い合わせは「放射能が気になって」

6) 13331。